郷土資料室だより

鈴鹿市文化スポーツ部文化財課

第１号

新収蔵資料の紹介

昭和三十七年十一月三日　サーキットへ向かう渋滞の様子
住吉地区　花井圭一氏旧蔵資料　令和元年度寄贈

昭和三十七年（一九六二）九月二十日に鈴鹿サーキットは開業しました。そして，その年の十一月三日・四日に第一回全日本ロードレース大会が開催されました。これは日本初の舗装路面サーキットである鈴鹿サーキットでの初のレースであり，日本における本格的なレースの幕開けでもありました。その様子を見ようと詰めかけた観衆は約二十七万人といわれており，車の渋滞は名古屋まで続いていたそうです。

この写真は，その渋滞の様子を鈴鹿市住吉で撮影した一枚です。まだ未舗装の住吉地区内の道路に延々と続く車の列やそれを見物する沿道の人々の様子が写し出されています。

令和元年度　主な受け入れ資料

- ＊解体前の東洋紡鈴鹿工場写真（１９８９・３・２０撮影）　２枚　岸岡町個人
- ＊裃　一式　木田町　個人
- ＊花井圭一氏旧蔵資料　一括　牧田地区個人
- ＊市内古写真（画像データ）　一括　神戸地区個人
- ＊長太関係写真（画像データ）　一活　長太公民館
- ＊伊勢湾台風慰問される皇太子殿下と岸信介首相の写真　２枚　玉垣地区個人
- ＊伊勢型紙小本・道具類　愛宕公民館より移管
- ＊南部芳松作伊勢型紙額他　若松地区個人
- ＊林崎町自治会文書（寄託）　林崎町自治会
- ＊伊勢型紙　２５０枚　四日市市個人

サーキット周辺の駐車の様子

サーキットに観戦に来た観客の自家用車が沿道に駐車してあります。今ではちょっと考えられない大胆な駐車の光景ですね。

（稲生地区）

この郷土資料室だよりでは、郷土資料室で保管する古文書を中心とした史資料について紹介していきます。

郷土資料室
〒513-8701　三重県鈴鹿市神戸一丁目 18-18
Tel 059-382-9031　Fax 059-382-9071

発行/鈴鹿市文化スポーツ部
文化財課
発行日/2020 年 3 月 25 日

山中家文書の紹介①　災害や伝染病の記録

鈴鹿市白子は古くから、着物の文様のもとになる型紙の生産のみならず、徳川御三家の一つ・紀州藩の手厚い保護を受けて全国の紺屋（染め物屋）に行商し、堅実な商法で財を成した伊勢商人の町として知られて来ました。

郷土資料室の収蔵庫には、明治維新で株仲間の特権を失い、徴兵制や近代化の煽りをまともに受けながら、型売り業者として伝統技術の継承に粉骨砕身した山中重兵衛・小林喜蔵兄弟（以降敬称略）、及びその子息宛の葉書や書簡６８６２通が大切に保管されています。そこには、明治から大正時代の世相や事件、気象や災害にまつわる生の記録や、旅や商いの苦悩、切実な親心がダイレクトに記されています。

左の写真は「白子町字中町一部分之景」と印刷された山重型紙商店（明治四十一年）と、山中重兵衛が四国に回商した際宿泊した、主な旅館の一部（当時の写真付年賀葉書）です。

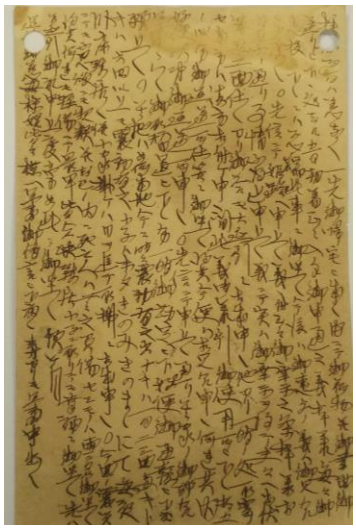
№９７４　高松市御坊町・あみた　小西旅館（大正２年）

№１５５５　伊予西條大町・立田山旅館（大正五年）

マグニチュード（以後Ｍ）６級の地震の２０％が日本付近で起こるといわれています。Ｍ９を記録した２０１１年の東日本大震災をはじめ、地震のニュースが度々日本を脅かす中、現在でも南海トラフや千島海溝沿いなど巨大地震発生の可能性が警告されています。また、昨年は、九月に「令和元年房総半島台風」（千葉県を中心に大規模停電）・十月に「同東日本台風」（相次ぐ河川の氾濫による大規模浸水）が発生し、未曾有の被害に見舞われました。

「山中重兵衛文書」の葉書には、これまで私たちが経験した地震や風水害の記録が多数見られます。今回は、それらをご紹介したいと思います。

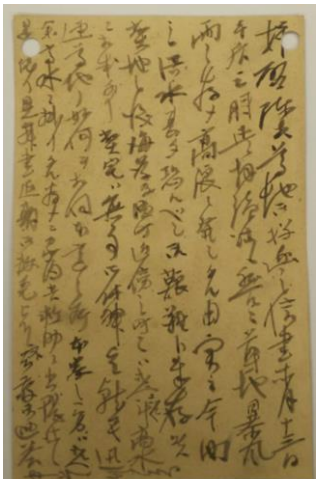
まず、明治二十四年十月二十八日に起きた、Ｍ８の濃尾大地震（全国の死者７２７３人・三重県の家屋倒壊２１１戸）の記録を見てみましょう。山中家には「過般者非常之大地震、貴館／御変セモ如何候ヤ、乍略御見舞／申上候、次ニ弊店無変、乍憚／御投神祈之候、先者、愚書ヲ／以テ御見舞申述候」（№２４５８　明治二十四年十一月一日　阿波国勝浦郡小松島村大字中田村　吉成萬次郎）他多数の見舞状が届き、同年十一月九日　桑名本町　植村経治郎は「○貴地ハ如何、当地今ニ時々震動有之、少ナキハ一日二三回、多キトキハ六回以上モ震動有之、小子ハ未タ身着のみきのまゝにて毎夜臥床致居候、○今回ノ震災ニテモ、不思儀ニモ親類并知己ノ内ニ死亡人ハ無之、負傷セシモノハ両三名御坐候得共、何れモ軽傷ニテ最早皆全快致居、小子ニ承リテモ幸福ニ御坐候、（№２４６２）」と余震の回数も具体的に記しています。



山中家はがき№2462

時代は下りますが、大正十四年五月二十四日　山中重兵衛が、静岡県田方郡の三島郵便局留置で回商中の息子・孝三郎に宛てた葉書には「伊勢屋旅館方の振替送／金相達し候間、御安心被下度候、小田／原へ一書投函致し置、定召御出／向之上御接手被成候哉、昨日午／前十一時の地震ハ、当地ニ於てハ前年関／東強震之節方も一層激烈ニは／感じ候事故、御地方の状態如何哉と心痛致し居候所、今朝の新聞紙ニて全く但馬（兵庫県）の中心なりし事分明（はっきり）致し、災害地の悲惨推量同情致し申候」（№６６１９）と、北但大震災（豊岡・城崎が甚大な被害を受け、死者４２０人を出したＭ６．８の地震）の記述が見られます。

次に暴風雨の記録をみていきます。明治二十二年九月十二日、四日市市浜町の山本利助と近藤伊七の連名で、「尊地暴風雨之為メ高浪ニ発シタル由、実ニ今回／之洪水甚タ恐ルベシ、御艱難ト奉存候、拙地之儀、海岸及浜町近傍之町々ハ弐尺三尺（６０～９０ｃｍ）計高水ニ相成な



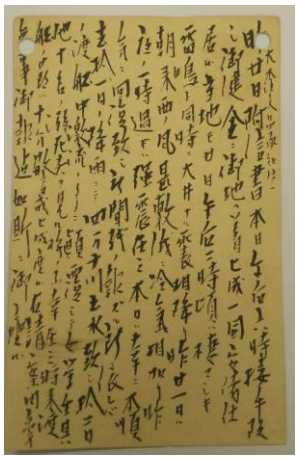
山中家はがき№2323

り、拙宅ハ無事御休神被下〔御安心下さい〕、本家之方ハ弐尺余高水ニ掛りタル為メニ、家内共救助ニ出張仕候、」（№.２３２３）とあり、翌日、近藤伊七から再び、「乍早速申上候、陳者〔さて〕、此間者御母上様ニハ／長々御てつだい被下、千万難有仕合／奉存候、右、御礼申上候、陳ル処、本月十一日／大雨風ニて、午後七時頃ゟ水入仕、畳ノ／上弐尺〔約６０ｃｍ〕計もあがり、甚ニなんじう／仕候、右之次第一寸申上候、先者、御礼／旁申上候（№.２３２４）」と本家の惨状を述べています。

大正二年十月九日　津市芸濃町椋本の佐野良吉は安濃川の氾濫を、「此度風雨害之御見舞／奉謝候、幸ニ樹木の損害免レ／格別之障無之候間、御休意被下度、／安濃川ハ非常之大水ニ而、流失家屋等有之、一家挙而水死無残之至ニ存候、随分川添之惨害目／ヲ当ラレヌ次第ニ有之候、（№.１０８６）」と伝えています。

また、大正四年五月二十一日、健四郎（山中重兵衛の子）は、徳島市東船場町　布屋旅館に宿泊中の兄・孝三郎に、次のような四万十川の惨害を案ずる葉書を出しています。

「大木（東京深川区で染色標本・美術模様本・小紋製本を手掛ける大木共進堂の事）注文品承知仕候、／昨廿日附信書、本日午后六時接手致／シ、御健全ニ御地へ着被成、一

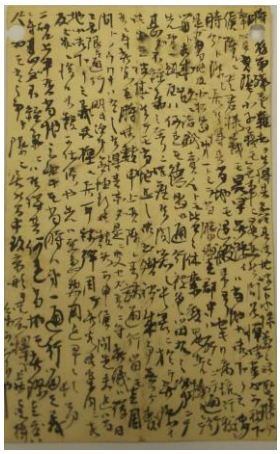


山中家はがき№.1922

同安堵仕居候、当地モ廿日午后二時頃ハ、凄マシキ／雷鳴ト同時ニ大井ナル雹相降リ、昨廿一日ハ／朝来西ノ風甚敷儀ニ冷気相加リ、昨／夜ノ一時過ギハ強震在之、本日ハ幸ニ本順気ニ回復致シ、新聞紙ノ報ズル所ニ依レバ、／去拾一日ノ降雨ニテ四万十川出水致シ、拾二日／ノ渡船中激流ノタメニ顛覆シテ、女学生其／他十名ノ溺死者ヲ見ル様ノ不幸在之、将来渡／船ノ節ハ十分警戒被成度候、右請案内旁／無事御報迄（№.１９２２）」

次に、伝染病に関する記事を紹介します。現在の新型コロナウイルス感染拡大と同様の騒動が、明治時代も起きています。

明治十九年二月十五日　徳島県勝浦郡中郷邨（小松島市）の桂種吉は、「当地モ、過般来ヨリセキリ病流行致シ、是ガ為、当地及小松島第一トシテ、当勝浦之郡中ハ所々ニテ通行留ト相成、故ニ諸職売人トモ皆々休業致罷在ル、先第一、紺屋ハ何れモ徳島江通行被差留、右之次第ニテ甚ダ不経気之至リニ御座候間、若シ貴君ニ於テ、此際イ御出立被成候テモ、当地迄之御出頭被成事無ツケ敷候ニ付、（中略）通行留モ壱周間トノウワサハ有之候得共、未ダ是ニ決セズ候ニ付、此儀ハ後日ニ不限



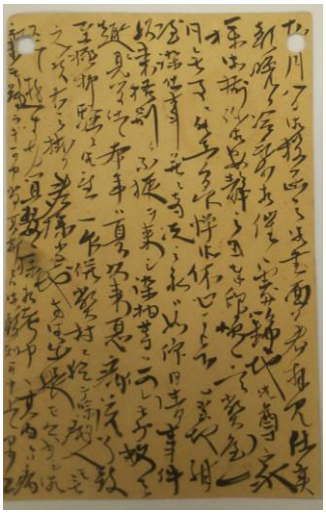
山中家はがき№.2158

ラ、通行明キ次第、無油断御報知可申候間、先夫迄ハ、当地江御下り之義御控え居可被降、」（№.２１５７）と感染拡大を防ぐ為、道が封鎖された事を重兵衛に知らせています。

そして二十七日付で、封鎖が解かれたので残りの荷物を蒸気船で大阪へ積送した事、混雑の為、播州路（兵庫県）を先に片付けるよう忠告しています。（№.２１５８）

また、同年十月二十日、四日市市浜町　山本利助からの葉書は、「当所祭礼之儀、悪病流行ノ為延引相成リ申候所、右流行病も追々静マリ候故、本月廿六・七日両日ニ祭典可相成候間、御都合御越被下度奉願上候、」（№.２１７５）と、当時「東海の三大祭」と称えられた四日市祭（諏訪神社の例祭）が一ヶ月延期になった事を伝えています。

同様の記事は、明治二十七年九月十三日　阿波小松島（現徳島県小松島市）吉成万治の葉書にも見られ、「当地紺屋染仕事幷ニ商況之義ハ、如仰日清事件以来格別ニ不振ヲ来シ、染物等ハ何レモ少数之趣ニ見聞仕候、本年ハ夏以来悪病流行致、至極物騒ニ御座候、乍併、弊村ニ於テハ余り病人モ無之候、其内ニハ病気モ薄ラギ可申、尚其折ニハ御報知可申上候、」（№.６）と重兵衛に出張は少々見合わせるよう通知し、十月十六日、余り上景気ではないと念を押しながら「此比者

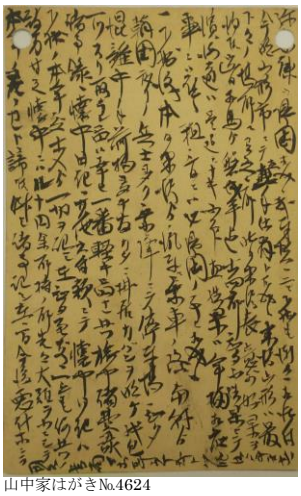


山中家はがき№.6

流行病モ余程スクナク相成候ニ附テハ、紺屋之方モ先中景気ニ候得者、其御地御都合ニ依而御入来之程、可然ル様奉致候」（№12）と流行の終息を伝えています。

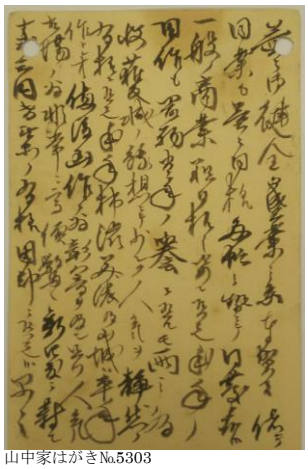
伝染病拡大の要因は、帰還軍人のすし詰め状態と言われていますが、その状況は明治三十六年五月二十八日、羽前国上ノ山停車場（現山形県上山市）にて杉崎七兵衛（重兵衛と親交の深い、大変筆まめな型紙商）が記した次の葉書に書かれており、七兵衛がスリ盗られた品々から回商中の持ち物を知る事も出来ます。

「下拙儀、本日米沢ヶ汽車二乗車ノ際、当県ヶ韓国戻リノ兵士多ク乗降ニテ、停車場甚タ混雑中、手荷物多キ故カタニ掛居カバンヲ明ケ紙包一ツスリ取ラレ、品ハ幸ヒ一番軽キ品ナレ共、旅中諸費録・諸事録・懐中日記、其他書付類ニテ、懐中日記ハ下拙ノ本年度出入ヶ一切ヲ記シ在、甚タ差支候へとも何共致方無之、懐中ニハ凡十円余所持ノ所、先々大難ヲ小ニシテ本年ノ厄ノカレト諦候」（№4624）


山中家はがき№4624

また、盗難については、重兵衛の息子孝三郎も、大正二年五月一日　回商先の広末（高知市浦戸町）から「昨三十日ヲ以テ県下ノ商用モ全部手仕舞／ニ相成候間、今朝徳島へ出立可致筈ノ／所、昨夜ヨリ非常ノ豪雨ニテ近所へ出ツル／事スラ難出来場合ニ付、空シク雨ノ歇／ムヲ待居候、先便ニ申上候身体不快ナリ／シ所ハ幸ニ僅カ一日ニテ全快致シ候間、／安心被下候、何レ徳島へ着ノ定日ハ又／々后便ニ申上候得、晴天ナレハ四日目ニハ／着徳スル考ニ御坐候、去ル廿八日夜一時半頃／屋根伝ニ盗人忍入、拙者不快中ニテ目ヲ醒シ居候／間、家族ヲ呼起シ候故逃走無難也、然ルニ、翌晩又々／裏坐敷ノ二階ヘ忍入、客人ノカバン・時計・金子ヲ窃取逃去候、」（№1045）と、二晩も続けて旅館に泥棒が入った事を記しています。

さらに、寒冷地特有の霜害や柿の凶作も、型紙の売り上げに大きな影響を与えた事がわかります。明治三十九年五月十八日、山形市に回商中の杉崎七兵衛が、高知市に回商中の重兵衛に出した葉書には「当地景況御通知申上候通り、本年又も大大霜害、誠ニ東北ハ三十五年以来連続ノ災害ニハ、殆ト閉口仕候、」（№5222）とあり、同年十月七日、白子の島村次助が高松市に回商中の砂屋利吉方の重兵衛に出した葉書には「本年柿渋、美濃及山城（現在の岐阜県と京都府）ハ平年作ナレ共、備後（現在の広島県）凶作ノ為影響ヲ及シ、且ツ人気相場ノ為非常ニ高価、驚候、」（№5305）とあります。


山中家はがき№5303

柿渋とは、八月頃に採取した最も渋みの強い柿を、その日のうちに砕いて搾り濾過して長期保存（熟成）させた物です。手漉きの和紙を三枚程柿渋で貼り合わせ、乾燥させた丈夫な型地紙は、伊勢型紙の生産になくてはならない物でした。

（渡邉潤子）

今回は、「山中重兵衛文書」から災害に関する資料をご紹介しましたが、同資料は近現代史を知る宝庫、まだまだご紹介したい葉書が山積しています！次回からは、山中家の商売を支えた家族をはじめ様々な注文書や道具類、品評会や共進会に於ける重兵衛の活躍などをテーマに書き記して行きたいと思います。

郷土資料　令和元年度　おもな利用・掲載等

＊東京オリンピック聖火リレー写真　フジテレビジョン		放送
＊鯨船行事写真	鳥羽市立海の博物館	掲載
＊龍ヶ池堤修覆奉願上候覚　他	CTY	放送
＊神戸城築城次第　他	CTY	放送
＊おかげ参り関係資料	CTY	放送
＊伊勢湾台風写真	CTY	放送
＊神戸藩札　他	個人	撮影
＊石薬師街並/平田大根畑写真	NHK エディケーショナル	放送
＊伊勢湾台風写真	鈴鹿市文化振興事業団	展示
＊松野家文庫　山中伝信録	沖縄県立図書館	撮影
＊伊勢型紙関係写真	株式会社テムジン	放送
＊寺尾家資料　見本帳など（株）TBS スパークル		放送
＊市内の古写真	教育指導課	掲載
＊山中重兵衛家文書	姫路市書写の里・美術工芸館	掲載

★郷土資料室のご利用について★

資料の閲覧等につきましては，現在，事前のご予約をお願いしております。ご不便をおかけいたしますが，ご了承ください。お問い合わせは，文化財課（059-382-9031）までお願いいたします。